

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第1面）

産業廃棄物処理計画書	
令和 6 年 6 月 17 日	
青森県知事 殿	
提出者	
住 所 青森県三戸郡南部町大字苫米地字白山堂 18-1	
氏 名 株式会社 夏堀組	
代表取締役 夏堀 真子	
電話番号 0 1 7 8 - 8 4 - 2 0 1 2	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第 12 条第 9 項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	株式会社 夏堀組
事業場の所在地	三戸郡南部町大字苫米地字白山堂 18-1
計画期間	令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 3 1 日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	総合工事業
② 事業の規模	完成工事高 6 億 471 万
③ 従業員数	14 人
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	アスファルトがら・コンクリートがら→再生処理業者に委託して再生骨材・再生砕石として再資源化 廃プラスチック→再生処理業者に委託して原料として再資源化 木くず→再生処理業者に委託してチップとして再資源化

（日本工業規格A列4番）



## (第2面)

## 産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

別紙のとおり

## 産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（      年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	排      出      量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	排      出      量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

## 産業廃棄物の分別に関する事項

① 現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 現場ごとに各自分別を実施している。
② 計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 今年度も現場ごとに各自分別を実施する

第2面

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

総括責任者		部長
廃棄物担当		各現場代理人
役 割	廃棄物処理 総括責任者	☆廃棄物処理方針の策定 ☆廃棄物管理規定の策定・改廃 ☆廃棄物処理に関する各種事項の決定・承認 ☆監督官庁への各種報告 ☆社員・関連会社に対する教育・啓発
	廃棄物処理 担当者 (各現場代理人)	☆廃棄物処理計画の作成 ☆廃棄物管理状況の把握 ☆マニフェストの管理

産業廃棄物の排出に関する事項

現状 前年度実績

産業廃棄物の種類	アスファルトがら	コンクリートがら	廃プラスチック	木くず
排出量	1764.94	517.61	9.19	136.32
産業廃棄物の種類	建設汚泥	ガラス・陶磁器くず	金属くず	
排出量	0.155	0.07	1.406	

計画 目標

産業廃棄物の種類	アスファルトがら	コンクリートがら	廃プラスチック	木くず
排出量	1235	360	6	95
産業廃棄物の種類	建設汚泥	ガラス・陶磁器くず	金属くず	
排出量	0	0	0	

## (第3面)

## 自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（          年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	t	t
	（これまでに実施した取組） 実施していない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	t	t
	（今後実施する予定の取組） 実施予定なし		

## 自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（          年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	t	t
	（これまでに実施した取組） 実施していない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	t	t
	（今後実施する予定の取組） 実施予定なし		

## (第4面)

## 自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（            年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) 実施していない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 実施予定なし		

## 産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度（            年度）実績】    別紙のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	全 処 理 委 託 量		
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(これまでに実施した取組) 書面による契約を実施している		

# 第4面 産業廃棄物の処理の委託に関する事項

## 前年度実績

現 状	産業廃棄物の種類	アスファルトがら	コンクリートがら	廃プラスチック	木くず	建設汚泥	ガラス・陶磁器くず	金属くず
	全処理委託量	1764.94	517.61	9.19	136.32	0.155	0.07	1.406
	優良認定処理業者への処理委託量				1.86			
	再生処理業者への処理委託量							
	認定熱回収業者への処理委託量	1764.94	517.61	9.19	134.46	0.155	0.07	1.406
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量							

## 目 標

計 画	産業廃棄物の種類	アスファルトがら	コンクリートがら	廃プラスチック	木くず	建設汚泥	ガラス・陶磁器くず	金属くず
	全処理委託量	1235	360	6	95	0	0	0
	優良認定処理業者への処理委託量				30			
	再生処理業者への処理委託量							
	認定熱回収業者への処理委託量	1235	360	6	65			
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量							

## (第5面)

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量		
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 可能な限り優良認定処理業者から選定する		
※事務処理欄			

(第 6 面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が 1,000 トン以上の事業場ごとに 1 枚作成すること。
- 2 当該年度の 6 月 30 日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第 6 条の 11 第 2 号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第 15 条の 3 の 3 第 1 項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が 3 以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。